第二部【総合討論】　15：50～16：55

【司会】 それでは 15 時 50 分になりましたので、これより総合討論の部を開始します。先ほど話題提供していただいたみなさま、そして初山別村から村長さんを初めとして複数の役場職員のみなさんが出席しています。そのほかに今回アドバイザー等々で出席されているみなさまをご紹介します。まず、コーディネーターの水島さん、アドバイザーとしまして地域農業研究所の黒澤不二男さん、北海道農業研究センター農業経営研究チームの若林勝史さん、先ほど話題提供していただきました高野先生、細野先生のお二方。そしてオブザーバーとしまして留萌振興局地域振興課の渡辺課長さんがいらっしゃってます。同じくオブザーバーバーとして留萌農業改良普及センターからお二方がいらっしゃってます。このメンバーで総合討論を始めさせていただきます。この後はコーディネーターの水島さん、よろしくお願いします。

【水島】 それでは総合討論の部を始めます。

2005 年に北海道未来総合研究所というところが北海道 180 市町村の 30 年後、2035 年に人口がどうなっているのかを推定しています。その推定によりますと、北海道全体で 563 万人の人口が約 100 万人減って 424 万人になるだろうという予測です。その中で人口が増えていると予測されている市町村はわずかです。5 市町村で、大体が大都市、釧路、旭川、帯広、札幌など周辺の衛星都市です。そのほとんどが道央圏で半分近くの人が集中すると予測しています。残りは全部、過疎化がどんどん進行すると予測されています。極端な例としましては音威子府村、今でも十分過疎なんですが、そこは村全部で 300 人を切るだろうという予測になっています。

私は長いこと道立の農業試験場に勤めていましてその間、害虫や野鼠など動物の生態を研究していました。動物の生態の中にも過密、過疎という現象があります。過密と過疎どちらがいいのかというと一概には言えないのですが、どちらかと言いますと過密が過ぎると滅びの道に行きます。片方であまり過疎すぎても種の絶滅という滅びの道に進みます。なにごともバランスが必要だということです。そうした中で人間社会をとってみましても、東京のような大都市圏では過密によるさまざまな影響、最近は胸の痛む事件がずいぶん起きていますが、そうしたことの多くで過密による人の受けるストレスが原因とされることがたくさんあります。片方で過疎ということについてもそこにはいろんな問題があります。

どうしたらいいのかということにつきましては、過疎をこれ以上進ませない、むしろ過密のところから過疎のところに人を呼ぶ必要があると考えます。じゃあどうやったら人が呼べるのか、どうしたら長いこと住みつくことができるだろうかと考えますと、都市と農村地域には情報格差があり、その情報の格差が暮らしにくさを招いて情報化社会の中でその格差がますます進行しつつあります。都市の暮らし、便利さを農村地域、過疎地域にもってこないと暮らしていたくても暮らせないという現状があります。多くの人は自分の生まれ育ったところが一番いいところだ、できればずっと住みたいと思っていますが、過疎が進むことで、医療・福祉、教育など、どんどん不便になって暮らしにくくなり、暮らせなくなるという状況が生まれつつあります。それをなんとかしなければいけない、というのがこの研究会の基本的な動機です。

本日、教育について専門とする方を呼ぶことができず話題提供ができなかったのが残念ではありますが、医療・福祉、暮らしの安全、消費＝いわゆる買い物弱者対策、そして交流＝観光を含めた人と人とのつながりをいかに緊密に保っていくのか、そうしたことについて6人の講師の方に話題提供をしていただきました。

いままで一方的に演壇のほうから話を投げかけていますが、まず最初に話題提供内容につきまして質問を受けたいと思います。今日の話の内容は横文字が多くて、とくに Wi-Fi なんていう単語はいったいなんなんだろうと思っている方も多いと思いますが、会場にお集まりのみなさま、遠慮なさらずにどうぞご質問お願いします。（質問がないため、このあと随時質問を受けるものとして討論を進めました。）

【水島】 では、アドバイザーで来ていただいています黒澤さんと若林さんに、今日の話題提供を聞いての感想、意見等をお聞きします。まず黒澤さん、お願いします。

【アドバイザー：黒澤】 地域農業研究所に勤めております黒澤と申します。先ほど水島コーディネーターから、東北太平洋沖地震のニュースを呆然と見ていたと話がありましたが、私も実はこの2,3日テレビに釘付けになっていました。その

とき感じたことは、ライフラインの問題、生活必需品の供給・販売、医療、高齢者の支援・安否確認、食料備蓄の問題、自治体間の連系システムとか、いろんな課題がこの異常事態に関連して明らかになってきました。これは確かに異常事態で明らかになったことですが、実は我々の日常生活の中で真剣に考えていかなければならない大きな課題でもあります。先ほどの買い物弱者の話題あるいは医療・福祉の話題など、初山別村のみではなくて私どもが居住している各地域においても重大な課題として認識を共有化することが必要だと感じています。

私は街づくりのお手伝いもしておりまして、千歳市の振興計画の中の農業分野の座長を務めさせていただいてます。先般その答申をしたのですが、市議会の委員のみなさまから、かなり厳しい意見が出されています。その一つは、千歳市は臨空都市で北海道の観光・物流の拠点として北海道でも代表的な市町村でもあるわけですが、周辺の農村部には光ケーブルも敷設されていない、整備計画も見られない。こんな状況でこれからも拠点都市としてやっていけるのか、整備計画はどうなっているのか、という厳しい指摘がありました。市では今後なんとか順次整備を行っていきたいとしています。

その隣町に長沼町がありまして、実は私が住んでいるところです。長沼町は7～8年前に市街地は光ケーブル、農村地域は無線LANを整備しています。ハードのインフラ整備は進んでいるのですが、住民の暮らしを支える有効なシステムがハード整備に伴って構築されているかというとそうでもない、ソフトの面で住民として良かったなという実感が得られない。インターネットにつながることはつながるのですが、先ほどからの医療・福祉などさまざまな生活環境に関連して素晴らしい実験システムが構築されたわけでもない、利用できる格好ではなくて、近頃はむしろ後退している状況です。第一次の整備に携わった事業者が撤退するなどして、ソフト等の整備構築が進まない形が見られます。このシステムでは町民どうしの電話は無料なんですが、貸与される専用の端末電話が必要で、一般の加入電話と専用電話の2台置かなければならない。町民としては隣の家と無料通話できることがそれほど重要なことではなくて、専用端末はいらない、返却するということがでています。また同報無線等が町民どうしのシステムとして今も生きていて、ローテクの仕組みが残っているわけです。本来であれば、もっともっとハード環境が発展しているはずなのに、ローテクによってそれ以上進展しないという状況もあります。これから、地域の暮らしを支えるトータルシステムを構築するためには、運営する主体と利用する受益者とが一体となって意識を共有化して進めなければならないというのが、私の住んでいる町の事例を振り返って住民として痛感しています。

今日の話題には非常に有益な提言があり、プロポーザルに近い形のものがあります。これからこの地域で内容を詰めて整備を進めていくことは初山別村の住民のみなさんにとって有効なものと思います。

さて暮らしを支えるトータルシステムというキャッチコピーがあります。トータルシステムというのは非常にいいことで総合的に全体整備されるということですが、総合的に整備するというのはシステムも膨大になる、お金も掛かる、時間も掛かるということです。総合トータル整備の問題と実現性・実践性、コストパフォーマンスにより重点的に整備を進めるボーダーラインを考えていかなければならない、という二つの問題がこれからの検討のポイントになるのではないか、ということを感じました。

【水島】 ありがとうございます。それでは若林さん、お願いします。

【アドバイザー：若林】 貴重なお話をありがとうございます。正直な感想を申しますと大変に貴重な勉強をさせていただいているというところです。

私どもの組織、北海道農業研究センターでは農業の生産現場に関わる研究というのが課題としてあるわけですが、その中で生産履歴の整備ですとかGAP（ギャップ）への対応というのが注目されていまして、トラクターなどにセンサーをつけたり、GPSと連動させたり、実際の作業中にデータを蓄積して、それを無線LAN等で飛ばしてサーバ等に蓄積し、さらに分析していく過程でどういった栽培管理が適しているのか、生産性の向上にどう結び付けていけばよいのかといったことを研究していこうと考えています。私どもの研究が村内に構築される無線LANネットワークで役立つ形にしたい、役立てていただきたいと思っています。

今日のお話の中で、買い物支援であるとか、健康管理など、いろいろ興味のある話題がありますが、一番気になりましたのは初山別村の事業説明の中の人口ピラミッドです。20代が大きくくびれて高齢者が多くいるといった人口構成の中で、パソコンなりモバイル端末を使った取り組みをどこまで広げられるのかがネ

ックになるのではないかと思います。質問ということになるかも知れませんが、村内約4割にADSLが接続されているとのことですが、実際にパソコンなりを日常的にどう使われているのかを知りたいと思います。たとえばインターネットのサイトを閲覧しているとか、単純にメールだけ利用しているとか、利用の仕方によって今後どういうシステムを検討すればよいのかなど、現状を踏まえた方法が必要になるのではないかと考えています。

【水島】 黒澤さんから、トータルシステムというものを大上段に構えるとあまりにも重過ぎる、優先順位を含めて考える必要があるということ。若林さんからは、パソコンなど新しい情報機器をどれだけ活用するのかが鍵になるという話しをいただきました。

この村に住んでADSLを自宅に入れてパソコンなどでインターネットにつないでいるという方は会場にいらっしゃいますか？その活用についてどんな形でやっているのか、そして利用していて便利な点、不便な点などをお話下さい。

【会場】 現在利用しているのは情報を取るという形で自宅に4台のパソコンを置いて接続しています。利用として一番多いのは、村に書店がないものですから、Amazonなどで書籍を取り寄せることがあります。ただ光回線が入っていないために本来であれば利用できるものが利用できないというジレンマもあり、できるものならば光回線を設置していただきたいと考えています。

【水島】 ありがとうございます。かなりハイレベルに利用していらっしゃる方だと思います。あと後ろのほうにいらっしゃったと思います。どうぞ、お願いします。

【会場】 ネットで少し買い物をしたり、mixi（ミクシィ）で遠くの人と交流したりとか、村のホームページを見にいったりしています。いろいろなことや、ゴミの曜日確認などささいなことを簡単に調べることができますので、ネット接続が主です。ネットでいろいろやってますと、レベルの違いなどで、もしかすると情報を取られているかもしれない、また情報をこちらで漏らしているかもしれないと、うまく言えないのですが少し怖い感じがすることもあります。

【水島】 使いなれないと情報受発信で少し問題があるかもしれないが、使ってみて非常に便利だということを聞かせていただきました。ADSL の普及率が233戸、38.5%ということで市街地に密集しているということですね。ほかの地域ではどうなっているのでしょうか？

【初山別村：奥】 契約されている方もおりますが、実際には距離がかさむと減衰してスピードが出ない、契約はしているが使ってないという方もいらっしゃると聞いています。

【水島】 結局この整備の基本となるのはインフラの部分であり、村の全員が使えなければ意味がないと私も思っていますし、みなさんもそう感じていると思います。先ほどの話題提供で具体的に Wi-Fi を使ってチェーン的につなげて整備しようとの提案がありました。そのあたりの実現可能性、またやるとしたらどのくらいの期間が必要かなど、志田さん補足をお願いします。

【講師：志田】 元出しを ADSL にするか光にするかが問題です。まず ADSL ですが基地局から離れれば離れるほど減衰しますのでスピードが落ちます。基地局から遠いところでレスポンスが落ちて使い物にならないということで苦慮されている方もいらっしゃるかと思います。

Wi-Fiを立てるにはFonルーターを接続してエリアを広げていく形です。ADSL 接続の末端に Fon ルーターをつけることは非常に簡単にできますし、そんなに多くの日程も必要ありません。市街地である程度密集しているところはこの方法でもよいのかと思いますが、ADSL の速度が遅い地域や整備されていない地域は先ほど説明しましたベルエアーの屋外ルーターの接続が必要になります。元出しの回線が光なのかADSL なのか、それによってどの程度の設置数が必要なのかを調査しなければ明確な数字は出ませんが、その調査を行うと後は電柱に共架するなどして付けるだけですので比較的早く実現できるかもしれません。光に接続するのが一番いいのですが、段階的にある程度スピードの取れるADSLを選んで基幹としてベルエアーを設置し、後日、光接続が可能になったときに光に換えるなどの方法も取れます。

【水島】 まずひとつはすでに ADSL が入っている

地域の狭い範囲で Wi-Fi 環境を作る。たとえばこの交流センターのように Fon を設置して ipad や iphone を接続する。これには費用も掛からないで比較的容易に構成できるということですね。そしてもう一つは ADSL が敷設されていない周辺地域や奥まった地域をどうするかという点は、ベルエアーで Wi-Fi をつないでいくという提案ですが、これには費用が掛かりますということです。正確な数字や経費的な積算は調査したあとでなければ難しいということですが、技術的にはやろうと思うとすぐできますということです。利用するにはインフラ整備が基本になりますが、村としてなにかお考えがありましたらご披露願います。

【奥】 村としましてはインフラをどうするのかということは非常に大きな課題だと思っています。先ほども話しましたが、羽幌、遠別では光が可能になっています。わが村の人口密度等で光回線を導入できるかというと、これはほぼ不可能です。Wi-Fi を考えたときに ADSL を入れているところでは Fon ルーターをつけることですぐ Wi-Fi 環境が実現できるということですが、問題は入っていないところ、速度の遅い地域をどうするかということでは屋外ルーターでの引き廻しという提案をいただきました。インフラ整備で一番いい形をとりたいのはやまやまですが、うちの村の財政規模で出せる費用は限られています。今のお話の中で Fon ルーターはいただきたいと思います。屋外ルーターは実際に現地に入っての調査がなければ正確な数字はでないということですが、そこらへんのソフトバンクさんの事業協力の方針など取り組みをおしえていただければありがたいのですが。たとえば屋外ルーターは費用的にこれくらい掛かる、その費用のうち半分くらいは村で負担してほしいなどの話が出ると金額によっては応じることが難しい部分もでます。情報化というのは整備することがいいのは分かっているんですが、費用対効果がなかなか出にくい出しにくいとの問題もあります。仮に村負担が生じるということなら、なるべく早めに数字を出してほしいと思います。

【志田】 ソフトバンクさんの中身について断言することはできないんですが、屋外の Wi-Fi 装置は数キロ飛びますので設置の仕方では数量的に少ない配置で可能になるかもしれません。またソフトバンクさんは何らかの形で協力したいと考えていますので、Fon ルーター、携帯端末など個数によっては提供してもらえると思っています。それと国交省の光回線が国道沿いに敷設されていますので、これを使うことができないかを検討する必要があります。国交省では実際に使用するのは通信事業者でなければならないとの規定がありますので、ソフバンクさんが使用するとしてどのくらいの費用で借りられるのかを打診することが必要です。光を基幹として屋外ルーターを配置しますと、速度的にも経費的にも思っている以上の進展で、Wi-Fi環境を整備できることが可能かもしれません。費用的に一番負担の少ない現実的な方法を検討することが重要だと思っています。

【水島】 技術的にできるだろうということが本当に可能なのかを、実際にモデル的に地域を設定して試す必要があろうかと思います。そしてお金の面につきましては非常にシビアな問題が付きまとうわけですが、情報化は国の施策でもありますし、北海道としても力をいれている内容です。そうした中で地域への支援対応、具体的には補助事業等の予算を活用して行う形も考えなければ難しいのかと思います。

【黒澤】 ハードの部分は協力していただける企業によって整備の可能性が強いのかなとの印象を持ちました。問題はそういう環境が整備されたときに使いこなすということを考えると、モバイルなりパソコンなり本当に大丈夫なのかなと思ってしまいます。昔のパソコンと違って、いまは iphone や ipad などユーザーインターフェースが非常に使いやすくなっているとのことで、かなり高齢の方でも十分使えると考えていいものかどうか、細野先生このへんの状況はどう考えるといいでしょう。

【アドバイザー：細野】 先ほど少し時間を押してしまいそのあたりに触れることができませんでした。十年くらい前にインターネットが普及し始めたころ地域の情報化を図るためにパソコン環境を考えたところがありました。富山の山田村でしたか、村民全員にパソコンを配って先行したんですが、結局使えなかった。で、事業で何が残ったかというと村とパソコンの指導や調査で協力した早稲田大学の学生との交流ができた、ITではない交流ができたというオチなんです。じゃ、今はどうなのかというとソフトバンクさんの宣伝をするわけじゃないんですが、タブレット型のパソコンというか ipad とか iphone とかは、まったく恐れることはありません。初期設定だけは誰かにやってもらう必要がありますが、画面にアイコンが並んでいて触るだけで直感的に使えますのでまったく心配

ないと思います。かつてインターネット接続がブームになったときは情報化事業でパソコンを使いましょうと動いたんですが、当時のパソコンでは無理だったんです。いまはそのときとはまったく違います。

先ほどからの話の中で、インフラ整備の基幹を光にするのか既存の ADSL にするのかという問題が残っています。フルに Wi-Fi を使って地域を整備するときに、若林さんの言われた農地の観測データを取り込む程度の容量では ADSL 接続でも問題ないと思いますが、高齢者の状況確認などに Skyp（スカイプ）などを使って顔画像を活用しようと考えると ADSL ではかなりきついんです。ADSL はデータを落とす速さと上げる速さがまったく違います。もともとインターネット利用は、ホームページを見るなど情報を得るための受身の使い方が多かったんですが、現在はクラウド型サービスやサーバー利用によって大量のデータを双方向で利用する、テレビ電話的な使い方が始まっています。動画を端末から中枢に上げることになりますので、早い段階で開発局の光ファイバーを借りて整備するのがいいと思います。

光ファイバーの整備には二つあります。一つは Wi-Fi の基幹回線として光を接続する。もう一つは、羽幌町のように街中に光ファイバーを張り巡らせる形です。先ほどの役場の説明のとおり人口密度、戸数などから村全域に光を敷設するのは不可能だとのことですので、初山別村では Wi-Fi の基幹接続の方法になると思います。当面の動きとしては経費的な問題で ADSL と Fon ルーターの接続で Wi-Fi 環境を作るのが妥当なところかと思いますが、光接続の Wi-Fi は上り下りともに高速利用ができますので、できるだけ早く国道沿いに走っています開発局の光ファイバーを開放してもらって利用するのがいいと思います。

【水島】 インフラの部分でいろいろな話が出ました。また同時に昔のパソコンに対するアレルギーの話もあり、それを克服しないと利用されないシステムになってしまうとの話もありました。今は時代が進み技術も進み、パソコンでないパソコン、たとえば ipad のような画面を触るだけで操作ができるものが普及しています。私のところにも三歳の子供がいるんですが、ipad をあずけておくと 1 時間でも 2 時間でも触って遊んで、YouTube とかに接続して好きな画像を取っています。案ずるより生むが安しのとおり、まずやってみることが大事だろうと思います。

あまり時間が残っていませんが、ここで、せっかくこういうステムを作るんなら、こういうことをしてもらいたい、こういう情報がなければ役に立たない、というような要望・ご意見をお聞きしたいと思います。

【会場】 消防団の関係者です。携帯電話を使った通知システムが使えそうかなと考えています。この仕組みではたとえば消防団員の一部に通知する、あるいは全員に通知するなど、情報内容によっていろいろな対応ができるのでしょうか。

【講師：大島】 どういう範囲でどう登録するかの分類と条件設定でどのような形でも可能です。私どもでも先行事例などのコンサルや助言はしますが、まず利用される部署等で、その条件等を整理していただければすぐにでも利用可能です。

【初山別村：大水】 今の話に関連しますが、村で「てん蔵」を利用するとしてカスタマイズする必要があるかと思っています。また、携帯電話等に情報発信する場合、携帯 1 台づつ別経費が発生するのかなど、費用的なことを示していただけないでしょうか。

【司会：田中】 司会と営業を兼ねる形で申し訳ありませんが、お答えします。まずモバイルで必要情報、注意報・警報を出すという仕組みは、携帯電話 1 端末あたり月　　円という設定です。これは 1 端末ですので、役場さん、消防署さんでどのくらいの数量があるのかを積算して費用を出すことになります。積算の数字につきましては端数カットするのか大胆に値引きするのか、打合せの中で決めていければと考えています。

てん蔵の利用料は過去の利用者との打合せの中で、特に農協さんとの協議で年間で情報入手に拠出する予算をおおむね押さえてあり、その範囲内ということになります。組合員数など規模によって相違がありますが平均的なところでは月　　万程度、大手の農協さんは別ですが、これぐらいしか出せないよというところがほとんどです。年間で　　万以下といったところです。また農協さんによっては組合員の自己負担でというところもあり、その場合は組合員様一人当たり月額　　円、年間　　円、面倒なので　　円で、という状況です。ただ、てん蔵の利用についてはいろんなパターンがありますので、初山別村さんとその状況を協議しながら、設定したいと考えています。

【奥】　続いてお金の話で恐縮なんですが、いまの話の中で緊急通知　　円というのは分かったんですが、てん蔵を使って一般住民への周知システムを組み込んだときに、モバイル１台あたりの利用経費はどうなるのかが不明です。まだシステムが出来上がっていない状況で大変答えにくい質問だとは思いますが、ネットワークモデル事業としての位置づけでどうお考えになっているのかを示唆いただければありがたいのですが。

【田中】　非常に答えにくいご質問なんですけれど、今のご質問は二つに整理する形になります。一つは警報や緊急情報を強制的にモバイル端末に送りつける仕組みで、これが月額１台あたり　　円です。この仕組みはマイコス・オン・モバイルという名前で商品化しています。

もう一つはてん蔵という仕組みです。これは仕組みそのものを先ほどお話しました使用料でお使い下さいという形をとっています。てん蔵には話題提供で大島が話しましたように、お知らせ機能を使って個々のモバイル端末やパソコンにメール周知する機能が始めから組み込まれています。モバイルやパソコンのメールアドレスを登録しますと、必要情報が周知されます。端末１台あたりの使用料などといった新たな経費は発生しません。この仕組みはてん蔵に組み込んでいますので、てん蔵の使用料のみで利用できます。

【水島】　買い物弱者への対策など大変に具体的な話題提供もあり、それぞれの課題への取り組みが見えてきましたが、過疎地域に伴う問題で、医療・福祉は重要な課題だと思います。昔のパソコンのイメージを一新する新しい端末も出てきましたし、場合によってはテレビ電話のようなフェイス to フェイスでお互いの顔を見ながらの連携や診断なども考えられる、そういう時代になってきたわけですが、高野先生、これから新しくネットワーク整備する初山別村でこれだけはやるべきだ、環境が整えばこうしたことができるんじゃないかというような助言がありましたらいただきたいのですが。

【アドバイザー：高野】　訪問介護などで携帯電話を使っているところもありますし、仕組みとしてはかなり利用できるんじゃないかと考えています。モバイルなどを使って、ちょっとしたことで安否を確認する、それがネット環境で構成されるというのは応用範囲が相当広がるのじゃないかと期待できます。ただ訪問看護・介護というのは初山別村だけではなくて、かなり広域に多くの組織が関連しますので、ここで構築される仕組みも各組織と共通のプラットホームを検討しなければならないかと思います。また人と人との交流は、狭い地域では日常的に顔を合わせていると思いますので、機器に頼るだけではなく、日常的なつきあいや本来の地域の交流を大事にして、その延長にネット環境、最新機器の利用という整理が必要じゃないかなと思います。

【水島】　ステップバイステップといいますか、できることから始めていくことが大事ですね。まず地域で可能な環境整備をして、つぎにたとえば大学付属病院と遠隔診療の仕組みを検討するなど、段階的にいろんな整備をする形にして、当初はなんでも入れ込まないことが大切だということです。

先ほどの買い物弱者の話題で、イオンの広域対応の具体例が示されました。その中で地元の商店街との関係をどうするのかという提案もされています。地元の商工会の方、この話題につきまして、ご意見ご質問はありませんか。

【会場】　商工会長の武田と申します。車でよその町に買い物に行く、医者に行く、行ける人はいいんですが、高齢で車もなくてどこにも出れない人など、わが村にも買い物弱者がいるわけです。商店も将来的に高齢化して店がなくなってしまう可能性があります。話題の中ではあちこちの例として何パターンかのネット購入が示されていますので、これからネットワークが整備されるのであればぜひ検討したいと思っています。

それとは別に先ほどから話を聞いていますとネットをつくるための基本的な話になりますが、どうもネットワーク整備の理由が薄い感じがします。整備するとこれだけいい面がでるんだというようなアピールが少ないと思われ、農協さんが何年か前からやってる FAX でもいいんじゃないか、事足りるんじゃないかとなってしまいます。もう少しこういうことをやったらこれだけ良くなるんだということを打ちだしてもらいたいと思います。村のみなさんは回線がどうのということより、ネットワークが整備されると生活がこう変わるんだ、こんなに便利になるんだということを知りたいんです。ネット整備の計画と同時進行で村づくりをやっていかないと

機能しなくなるんじゃないかと心配しています。ネットワーク構築をぜひとも支援したいと考えていますが、少し心配な部分を話させてもらいました。

【水島】 ご意見・ご支援ありがとうございます。教育の話題提供ができなかったのが少し残念です。地元の先生に教育に関してなにかご意見があればお出ししていただきたいと思っていましたが、会議で席を外しているようですので、つぎの機会に話題提供を含めて整理したいと思います。時間が足りなくなってきましたが、アドバイザー、オブザーバー、そして話題提供のみなさんで、これだけは言っておきたい、補足したいということがあれば、お願いします。

【細野】 商工会の方からネット構築のポイントについてご指摘があったんですが、実はインターネット利用を含めてのネットワーク形成にはこれだという目玉がないんです。いろんなところで実証実験や補助事業をやらせてもらってますが、補助事業はほとんどの場合、今ある水準から意図的に一点だけものすごく高くして目立つポイントをつくるんです。これだけ良くなるんだという目玉を上げると分かりやすいんです。説得しやすいんです。ところが、インターネットでブロードバンド環境を全般的に便利にすると、関連するいろんなもののレベルが一緒に高くなり地域のいろんなレベルが全体でアップしますので目玉が見えにくいんです。あるレベルからあるレベルまで全体を上げたとしてそれを体積で表しますと、非常に大きい体積になります。ところがあるレベルから一点だけ上昇させますと目立つアピールのところだけアップして全体の体積はそう大きくは増えません。地域の情報化が進むことは、関連して地域全体のあらゆるレベルが高くなるんです。

実は都市では当たり前になっているブロードバンド環境が初山別村の過半数も維持できていないということはものすごい不便を強いられていることなんです。同じ村の中でも使えるところとだめなところがあるというのは利便性に大きな格差が出ているわけです。その格差を解消するために事業を起こし Wi-Fi 整備したとしても、都市の当たり前の環境と同じレベルになったということで、特筆するメリットを作るのは難しいんです。村全体のレベルを同じように上げて全体で使えるようにするのが重要なことだと考えます。ただ、商工会の方のおっしゃるとおりで、何かポイントを定めて分かりやすく伝えないと村のみなさんには理解されないとも思いますので、どうすればいいのかを考える必要があります。

【水島】 非常に分かりやすいお話でした。使ってみなければ便利さが分からないというのは、まったくそのとおりで、たとえば車の免許を持ってない人が免許をとって車を買うと、行動範囲が抜群に広がり、その便利さというのは運転しないときには分からなかったと言われます。それと同じでまず使ってみるという動きが必要かと思います。

それでは、暮らし・生活の関連で留萌の普及センターで生活担当しています松田さん、ご意見・感想等お願いします。

【オブザーバー：松田】 感想を含めて少しお話します。農村地域では女性農業者が農作業と家事を両立させていますので負担が大きくなっています。村のシステムがうまく動くと少しはその負担が軽減されるかなという期待はあります。ただ自分を含めてパソコンや先進機器をどう扱えるかを考えますと、先ほどから ipad などは非常に簡単に操作できるといわれていますが、たぶん機械に弱い私などは器材を見たときに受ける印象はパソコンと同じように感じてしまうのかと思います。

普及センターでもお母さん方を対象にパソコンを使って農業簿記をしようと取り組んでいますが、パソコンを使うということと、簿記を覚えることの二重の苦しみを強いている感じがあり、使うためのフォローをして、目的・やりがいを持っていただくことが重要だと思っています。村のシステムとしては、そのメリットを前面に打ち出して進めていただければ使い栄えも大きくなるのかなと感じました。

【水島】 終わりの時間が迫ってきました。本日、研究会という形で、こういうシステムを作ってはいかがですかというアイデア、企画を出す側とそれを受けて事業として進める側とが一堂に会しました。こういう事業は双方が同じ認識で動かなければなかなか難しいと思いますが、第一回目の今日は、アイデアを出す側から村にラブコールを送ったという格好です。このラブコールに受ける側としてどんな印象をお持ちになったか、どんなお考えがおありかということをお話いただければ幸いです。